

## 介護福祉基礎「介護を必要とする人と生活環境」学習指導案

広島県立吉田高等学校

教諭 渡邊 大記

### 本学習指導案のポイント（高校教育指導課指導主事 宮本 洋子）

本学習指導案では、高齢者の生活や介護福祉サービスを理解し、介護の在り方について思考し、どのように生活環境を整えれば利用者がその人らしい生活をおくることができるかについて思考するよう工夫された授業展開になっています。

また、訪問介護の一場面を再現し、シミュレーション活動やグループでの協議を行うことで、福祉の専門職としてチームで取り組むことの必要性に気づき、臨床実践能力が身につくよう工夫されています。

1 実施日：令和5年12月21日（木）（5時間目：13時30分～14時20分（50分））

2 学年・学級：探究科2年生 科目「介護福祉基礎」選択者（8名）

3 単元名：介護を必要とする人と生活環境

4 単元について

#### （1）単元観

自立支援の観点に基づいた適切な介護福祉サービスを提供するためには、「介護を必要とする人」の理解が不可欠である。介護はサービス利用者の個別の生活を支援することであり、それぞれの生活環境・生活習慣・価値観など、サービス利用者自身の「その人らしさ」を理解することから始まる。介護職においては、生活環境を整えることで安全かつ自立につながることを理解し、心理的な側面や社会的な側面等も踏まえて自己決定を促し、適切な介護福祉サービスを提供しなければならない。そのため、高齢者の生活に関する課題やニーズについて深い理解のもと、介護の在り方について考えさせることが必要である。

#### （2）生徒観

2年生から選択科目として「介護職員初任者研修」修了を目指し学習をしている。半日間の介護福祉施設見学実習を2回終えているので、介護が必要な高齢者はおおむねイメージができる。3月には、訪問介護実習を控えている。生徒の約8割の生徒が福祉関係（介護就職・福祉系進学）への進路を考えており、全体的に福祉科目の学習について興味・関心が高く、授業も落ち着いて受けることができる。しかし、一斉授業形式の座学では、自身の疑問や考えを積極的に発言することが苦手な生徒が多い。一方、実習を伴う授業では、グループワークやペアワークから、より思考を深めることができ、自分の意見も発言できる傾向が見受けられる。

#### （3）指導観

本単元の指導にあたっては、高齢者の生活や介護福祉サービスを理解し、介護の在り方について考える。本時では、生活環境について取り扱う。訪問介護の一場面を再現し、生活環境を整えることで安全かつ自立につながることを、また、生活習慣や価値観の多様性を理解する。また、訪問介護場面を体験することで、3月の介護実習に向けて、必要な知識・技能について気付かせたい。生徒が福祉専門職を目指す人として、高齢者の生活や特徴を理解し、あらゆる介護場面において、一人一人に応じた対応ができ、その人らしい生活を送れる支援ができるよう指導したい。

5 単元の目標

- ・介護を必要とする人の生活状況を個別性や生活の多様性、社会との関わりなどについて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- ・介護を必要とする人の状況について課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的な解決策を見出す力を養う。
- ・介護を必要とする人の生活状況について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
介護を必要とする人の生活状況を個別性や生活の多様性、社会との関わりなどについて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	介護を必要とする人の状況について課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的な解決策を見出している。	介護を必要とする人の生活状況について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

7 指導と評価の計画（全5時間）

次	学習内容（時数）	評価				
		知	思	主	評価規準	評価方法
1	・バリアフリーとユニバーサルデザインの考え方 ・障害者の生活環境 ・福祉用具の活用（2時間）	●		○	介護を必要とする人の生活状況を個別性や生活の多様性、社会との関わりなどについて理解している。	ワークシート 行動観察 テスト
2	・居住環境整備の意義と住宅改修の実際（1時間）	○		○	・介護を必要とする人の生活状況について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	ワークシート 行動観察 テスト
3	・在宅介護場面における生活環境整備のあり方（本時1/2時間）		●	○	・介護を必要とする人の生活環境について課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的な解決策を見出している。	ワークシート 行動観察 テスト
		●	○		・生活環境について関連する技術を身に付けている。	行動観察

8 本時の展開

(1) 本時の目標

サービス利用者にとって心地よく安全で自立した生活環境とは？について思考できる

(2) 観点別評価規準

介護を必要とする人の生活環境について課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的な解決策を見出し、思考できる。

(3) 準備物

・教科書 ・ワークシート

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
導入 5分	1 本時の学習内容と目標を確認する。	◇訪問介護場面の生活環境について学ぶこと。サービス利用者にとって心地よく安全で自立した生活環境を考えることを伝える。 ◇本時の目標を提示する。 ◇高齢者の家庭内事故について確認する。		行動観察
展開 38分	2 事例の場面で、心地よく安全で自立した生活環境を考える。  ・事前学習を基にグループワークを行う。	◇事前学習で訪問介護場面の一場面を提示し、個人で心地よく安全で自立した生活環境を考えさせておく。 <考える内容> ・環境整備 ・コミュニケーション ・訪問介護従事者(実習生)としてのマナー・態度 ◇2グループに分け、考えを共有させる。 ◇教室に訪問介護の一場面の環境を再現する。実際に生活環境を整える演習を行うことを伝える。 ◇1グループに説明を行わせる。 問：サービス利用者にとっての“心地よさ”とは？ ◇2グループ目に説明を行わせる。1グループ目の発表の気付きを基に、2グループ協力して考えを整理し、発表する。(可能ならシミュレーションを行う)	介護を必要とする人の生活環境について課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的な解決策を見出し、思考できる。(思考・判断・表現)	行動観察・ワークシート・発表
	3 心地よく安全で自立した生活ができるよう在宅介護場面の住環境を整える。 ・説明しながら環境を整える。  4 演習内容を振り返る。 ・ワークシートにまとめる。	◇演習内容を振り返らせ、まとめさせる。 ◇まとめた考えを数人に発表させる。 ◇授業者のまとめを示す。 自宅での暮らし方は、生活する人にとって様々である。様々な思いや価値観を尊重しながら、利用者とともに支援を考えることが大切であり、それは自立支援につながる。		
終結 7分	5 本時を振り返り、次時に繋げる。	◇本時の内容を振り返り、訪問介護実習に向けて身に付けておくべき知識技術を確認する。次は、実演を行うことを伝える。 ◇本時の内容を学習して気付いたことわかったことをワークシートに記入させる。		行動観察・ワークシート

